

## 特集 「学び」を続ける

### 時評

#### 地方創生のカギは自律分散の中堅・中小企業向け経営学習塾

吉田 健司 一般社団法人寺子屋カレッジ 代表理事／株式会社ビット89 代表取締役／  
元 淑徳大学 経営学部 教授

### 今月の特別記事

#### 島耕作にみる日本の未来

弘兼 憲史 漫画家

### 特別研究

下村プロジェクト「ウィズコロナ・ポストコロナ時代の日本経済」第2回

#### ウィズコロナ・ポストコロナ時代のリカレント教育

田中茉莉子 武蔵野大学 経済学部 経済学科 准教授

### World View

〈フランス発〉

シリーズ「ウィズ／ポスト コロナのフランス  
経済の動向」第4回

#### フランスの食料・農業分野の動向

～美食の国の外食産業が抱えるジレンマ～

神林 悠介 外務省在フランス日本国  
大使館一等書記官

### イノベーション創造センター

〈活動紹介〉

2020年8月5日開催 DBJ iHub セミナー報告

#### データ活用まちづくりを構想する

株式会社日本政策投資銀行  
業務企画部 イノベーション推進室  
一般財団法人日本経済研究所  
イノベーション創造センター



特集 「学び」 を続ける

時 評

地方創生のカギは自律分散の中堅・中小企業向け経営学習塾	吉田 健司 一般社団法人寺子屋カレッジ 代表理事 株式会社ビット89 代表取締役 元 淑徳大学 経営学部 教授	2
-----------------------------	---	---

今月の特別記事

島耕作にみる日本の未来	弘兼 憲史 漫画家	4
-------------	--------------	---

特別研究

特集によせて	青山 竜文 日経研月報 編集長	9
下村プロジェクト「ウィズコロナ・ポストコロナ時代の日本経済」第2回 ウィズコロナ・ポストコロナ時代のリカレント教育	田中茉莉子 武蔵野大学 経済学部 経済学科 准教授	10

World View

〈フランス発〉 シリーズ「ウィズ/ポスト コロナのフランス経済の動向」第4回 フランスの食料・農業分野の動向 ～美食の国の外食産業が抱えるジレンマ～	神林 悠介 外務省在フランス日本国大使館一等 書記官	18
〈アジア発〉 シリーズ「アジアほっつき歩る記」第84回 ミャンマー ヤンゴンのダウンタウンを歩いて	須賀 努 コラムニスト・アジアンウォッ チャー	24
【明日を読む】 「日本問題」への誤解と「日本化」の拡がり	早川 英男 東京財団政策研究所 上席研究員	23

イノベーション創造センター

〈活動紹介〉 2020年8月5日開催 DBJ iHub セミナー報告 データ活用まちづくりを構想する	株式会社日本政策投資銀行 業務企画部 イノベーション推進室 一般財団法人日本経済研究所 イノベーション創造センター	26
--	--	----

## 地方創生のカギは 自律分散の中堅・中小企業向け

### 経営学習塾

よしだ けんじ  
吉田 健司

一般社団法人寺子屋カレッジ 代表理事  
株式会社ビット89 代表取締役  
元 淑徳大学 経営学部 教授



Live as if you were to die tomorrow.

(明日死ぬかのように、生きなさい。)

Learn as if you were to live forever.

(永遠に生きるかのように、学びなさい。)

これはインド独立の父といわれる、故マハトマ・ガンジーの言葉ですが、「人生100年時代」が叫ばれる今日、時代変化に適応したりカレント教育、すなわち学び直しの意義の大きさを再認識させられるのではないのでしょうか。

私の米国留学時代（1981-83当時の勤務先、旭化成(株)から米国イリノイ大学 MBA に派遣）、当時の米国でも私の在籍していたビジネススクール（経営大学院）のほか、地域住民のための教育機関であるコミュニティカレッジなどでは、社会人が経営学やプログラミング等を学んでいる光景を度々目にしていました。帰国後、会社の経営企画スタッフとして約6年間勤務したあと、中堅・中小企業等のための“社外経営企画室”を標榜して独立し、その後、大学教授として二足のワラジを履くことになりました。

このときの教育経験とあるできごとが、現在の仕事あるいはライフワークとの出会いとなりました。その出会いとは、某学生の父親であるAさん（中小企業経営者）が私の講義（経営戦略論）を聴講したいということで、社会人のお知り合い数人を誘われ、階段教室の最後列に陣取りながら熱心に受講されたことです。このAさんは「学生時代に商学部で経営学を学びましたが、今一度経営の現場で役立つ、生きた経営学を学び直したい」とのことでした。そしてこの社会人聴講生の方たちとの交流を通して、理論面・実践面だけでなく情報鮮度面（最新情報）も加味した新しいタイプの「経営学」の必要性を痛感しました。そこで、私は大学教授退官を契機に、進化系経営学講座の開発に着手しました。具体的には「あんパン経営学」と「近みらい経営学」という2講座から構成されています。前者はどちらかといえばMBAに代表される主観的でアタマ中心の経営術で、これに渋沢栄一翁の商道徳

に代表される客観的でココロ中心の経営道を織り交ぜたものです。後者は「経営学は生き物」との観点で、ビジネス界で起きている直近の時事ネタから潮流変化を把握する将来の舵取りのための経営ナビ（アンテナ）です。

この度、私塾として5年間の“実証実験（？）”を終え、中堅・中小企業・個人事業主向け経営塾として“日本を元気にする原動力にしたい”との構想のもと、一般社団法人を設立しました。各地方で経営塾の運営と講師を行うオーナー講師の方には、「経営教育マイスター」という認定資格を取得していただき、教材や講義の進め方などは一般社団法人の本部でサポートさせていただく予定です。受講生には、経営学を楽しみながら学んでいただき、その結果、各地域で信頼され、愛されるような経営学習塾を目指しています。「経営学」は、組織内の限られた経営資源である「ヒト」「モノ」「カネ」そして「情報」を最大限に活用し、その時折の各経営資源に関連した経営課題を解決するためのヒントを見出す手法や考え方を学ぶもので、企業以外のNPO組織や自治体などにも応用できる「問題解決学」といえます。

ところで、日本には“長寿企業”あるいは“老舗企業”といわれている創業100年以上の会社が世界でもダントツに多いのですが、それは“共生”や“自利利他”といった経営理念を重視しており、主にその地方の地場企業に多く見られる傾向があります。この日本の力となっている中堅・中小企業が各地方に数多く存在することは、持続可能（サステイナブル）で自律分散型の日本社会を形成する礎になるのではないのでしょうか。

最後になぞかけをひとつ。“経営”とかけて、なんと解く。その真髄は、陽明学でいう“知行合一”と解く。果たしてその心は？

どちらも短縮形の英語表現にすると「<sup>ケ</sup>K」「<sup>エイ</sup>A」!

では、お後がよろしいようで……。

(ちなみに、“知行合一”は英語に訳すと、Knowledge and Actionです。)

## 特集によせて

今号では、特集として「『学び』を続ける」というタイトルで括らせていただきました。

「継続的な学び」という意味では「リカレント教育（社会人の学び直し）」が重要なテーマですが、次頁の田中茉莉子氏（武蔵野大学 経済学部経済学科 准教授）の論文（特別研究）では、この内容を3つにタイプ分けしたうえで、ウィズコロナ・ポストコロナに沿った「あるべきリカレント教育」を提示しています。現在生じている「雇用のミスマッチ」の解決策としての側面も強いため、「学び直し」であると共に「働き方」への示唆を得られる内容です。

また、巻頭では、旭化成(株)で経営企画に従事してこられた吉田健司氏（一般社団法人 寺子屋カレッジ 代表理事、株式会社ビット89 代表取締役）から「生きた経営学」の学び直しについて提言をいただきました。ビジネスの現場で得てきた知見を有する方々が、どのように新しい形での学びを得ていくのか、そこには教育を提供する側にも幾つもの工夫があるようです。

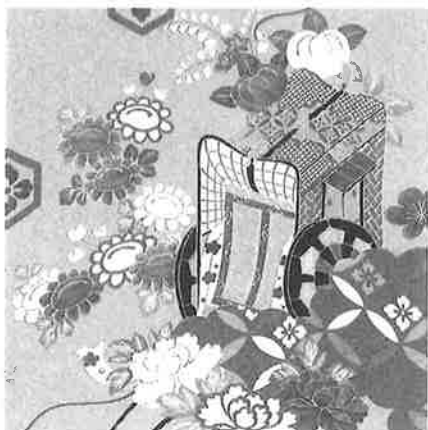
さて、日本を代表する企業人の一人は、ひょっとしたら、漫画家 弘兼憲史氏が生み出した『島耕作』なのかもしれません。今回の特別記事では、「島耕作にみる日本の未来」と題し、東京講演会での講演録を掲載しています。島耕作は、会長職に昇り詰めても、新たな技術とその社会への敷衍のあり方を学び続けています。学び「直す」というよりもまさに学び「続ける」ということが、強烈なアティチュードとして伝わってきます。

少し掲載時期のラグが生じましたが、2020年8月に開催した「DBJ iHub」の報告を今号に掲載したのも「学びのあり方」を共有させていただくためです。「異業種協働オープンイノベーションの実践」がiHubの一つのコンセプトになっていますが、「学び」は個人で掘り下げることが出来ると共に、「対話」により生み出されるものでもあります。今後の東京講演会でも、クロストーク形式を織り交ぜた企画を検討していきます。

改めて田中茉莉子氏の論文に戻りますが、企業であれ個人であれ「自発性」が問われる、というのは「学び」の基本ではないかと思われれます。コロナ禍において新たな一步を踏み出すことは容易ではないですが、この小特集が某かの「学びの契機」となることを願います。（編集長 青山竜文）



## 《表紙》「婚礼～御所車～」



大正から昭和初期に仕立てられた若い女性の振袖の一部です。

御所車とは、平安貴族の乗り物である牛車のことです。王朝時代の物語「源氏物語」の象徴としても扱われ、源氏車と呼ばれることもあります。王朝文化の象徴として、工芸品や染織品にも用いられてきた古典的で雅な文様です。

立身出世や富貴繁栄などに加えて玉の輿にも通じる縁起を持ち、車輪がどこまでも回り続けることから、幸せが永遠に続くことを連想させます。そのため、おめでたい文様として、現代でも婚礼用の振袖、打掛、帯などに盛んに使われています。

御所車を囲んで牡丹や菊などの花々が豪華に咲き誇る色鮮やかな着物地は、時を越えて婚礼の華やかさや花嫁の溢れんばかりの幸せのイメージを伝え、今なお私たちの目を楽しませてくれます。

《絵柄提供》株式会社 WATALIS (<https://watalis.co.jp/>)

WATALIS 社では、東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた宮城県亶理町の女性たちが作り手となり、筆筈に眠る古い着物地を雑貨にリメイクして再び世に送り出す「アップサイクル」に取り組んでいます。社名の由来は、亶理町の「WATARI」と“お守り”を意味する「TALISMAN」を組み合わせた造語であり、「WATARI」「WOMEN」「Wrapping」「Wonder」「World」の5つのWに思いを込めています。着物地の色や柄を活かしながら一つひとつ丁寧に手作りし、長い歴史の中で培われてきた日本の意匠の美しさに新たな命を吹き込んでいます。また、“ものを最後まで大切に使い切る”という古き良き再生文化を受け継ぎ、縁起の良い文様に込められた人々の幸せを願う心をお守りのように人から人へと手渡しています。

## 編集後記

1月7日に発表された「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」により、私の住む地域の保育園では約半年ぶりに緊急レベルが引き上げられました。主な変更点は、緊急事態措置期間にあたる約一か月間、登園率を60～80%に抑える縮小保育として運営するというもので、園はこの条件を満たすため、保護者に対し登園抑制の努力義務を課す位置付けとなっています。しかし、園関係者や園児にコロナ感染者が1名でも出れば、この登園基準は一気に崩壊し、状況によっては休園措置が取られることとなります。昨年春、一度目の緊急事態宣言により、保育園が約一か月間休園となりました。今保護者の間では、あの時に直面した苦勞を二度と起こすまいとする同心協力の雰囲気包まれていて、「ともに乗り越えよう」という気合を込めた思いをマスク越しに確かめ合っているかのようです。このまま有事が起らずあたたかい春が来て、コロナ前の日常に一日も早く戻ることを願うばかりです。保育園に関して、本号では、保育園等における事故防止の観点から調査した原稿（「保育所等における事故防止対策の実施状況等に関する調査研究」）を掲載しています。園や保育士さんのコロナに対する陰の努力も垣間見ることが出来ますので、ぜひお読みください。

本特集号は、今年度8度目となります。これからも編集長とともに、地域や文化、スポーツ等のテーマを設定して特集化していきたいと考えております。3月号は「レジリエンス特集」を予定しておりますので、ご期待ください。今後も賛助会員の皆様へのサービス向上を目指して誌面を充実させていきますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。（饗場 聖子）

## 一般財団法人 日本経済研究所 賛助会員入会のご案内

当研究所では賛助会員制度を設け、みなさまのご支援、ご協力をお願い致しております。

会 員：法人個人を問わず、どなたでもご入会いただけます。

- 会 費：◇特別賛助会員  
地域に関係なく、特別賛助をいただける法人・個人  
(毎年度1口40万円)  
◇普通賛助会員  
原則として、東京圏・京阪神地区に本社所在地・住所がある法人・個人(毎年度1口18万円)  
◇地方賛助会員  
その他の地域に本社所在地・住所がある法人・個人  
(毎年度1口12万円)

特 典：賛助会員にご入会いただきますと、会員限定 web の閲覧をはじめとした機関誌、各種資料による情報提供のほか、講演会・セミナーへのご案内などのサービスを提供させていただきます。

入会方法：当研究所（Tel.03-6214-3604）宛ご連絡くだされば入会申込書を送付致します。

### 賛助会員のみみなさまへ

住所の変更など登録情報に関するお問い合わせは  
E-mail : [sanjokai@jeri.org](mailto:sanjokai@jeri.org) もしくは TEL : 03-6214-3604 までご連絡ください。

## 日経研月報

非売品

令和3年1月31日発行（第512号）

発行所 一般財団法人 日本経済研究所  
〒100-0004 東京都千代田区大手町一丁目9番2号  
大手町フィナンシャルシティ グランキューブ15階  
電 話 03-6214-3605（代表）  
編集長 青山 竜文 副編集長 饗場 聖子

印刷所 株式会社イーフォー  
〒141-0031 東京都品川区西五反田8-7-11  
電 話 03-3779-1140（代表）

（本紙掲載の記事は無断転載を禁じます）